

## 沼南「ひまわりプラザ」突然の閉館

# 住民の声集め「ホールのある新施設」を

沼南近隣センター「ひまわりプラザ」が3月末で閉館となりました。

「ひまわりプラザ」は、旧沼南町中央公民館として建設された、沼南地域住民の心の拠り所であるとともに、観客席数500ほどの中規模ホールを備える施設として、柏市の多くの音楽団体が、練習・リハーサル・発表の場とする「音楽の街柏」を支える重要な施設です。



閉館になった「ひまわりプラザ」

柏市は、ホールの耐震性能不足の対策として吊り天井の崩落対策（ワイヤーネット設置）の設計を進めてきました。突然

の閉館について「今年1月中旬、ネット設置で耐震性をさらに弱める危険性が報告され、安全対策の見通しが立たなくなったため、利用者の安全を第一に考えてのこと」といっています。しかし、天井落下の危惧は2011年の東日本大震災の際に指摘されていたもので、それへの対応の遅れが今回の突然の閉館決定につながったといわざるを得ません。

### 代替施設と交通手段の確保を

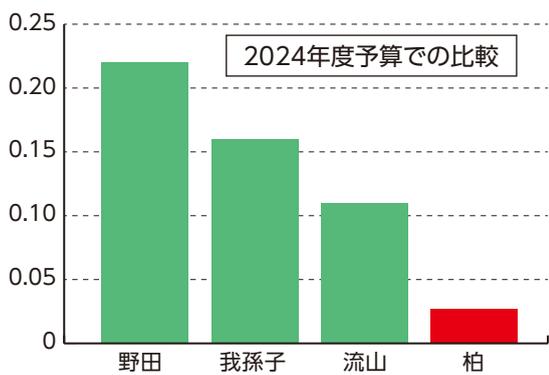
柏市には、住民総意の、ホールを持つ新たな近隣センターを建設するとともに、新施設完成まで住民に対し不便を強いることがないように、代替施設とそこまでの移動交通手段を確保することの責任があります。

## コミバス、シルバーパスは市長の公約

# 住民に責任負わせず、市が主体的に

前回の市長選挙で太田市長は、「住みやすいまちナンバーワン柏、をめざし「市内全域にコミュニティバスの実現を検討します」「シルバーパスを導入し、お年寄りの外出をサポートします」と公約しました。柏駅と市役所・ウェルネス柏を往復するバスは実現しましたが、交通空白不便地域11カ所では進んでいません。昨年つくられた市の「手引き」は、住民が運営組織を作り、実証実験から導入後の収支率まで住民に責任を負わせる内容です。「ハードル

一般会計に占める公共交通予算の割合



近隣市の病院バス等を活用した高齢者の移動支援

	対象者	協力病院等の数	路線数	登録者数
流山	65歳以上	5	6	5053人
我孫子	65歳以上 障害を持っている方	*7	33	1797人
野田	75歳以上 障害を持っている方	2	9	111人

\*我孫子市は病院5、自動車教習所1、老人福祉センター1

が高く、とても無理」との声が寄せられています。国の法律どおり柏市が主体的にとりくむべきです。

シルバーパスの実証実験が昨年から南部地域のワニバス（旧ジャンボタクシー）で行われています。75歳以上の高齢者が100円で乗れる制度です。市内全域で高齢者が路線バスにも安く乗れる制度の1日も早い実現を求めます。

柏市の公共交通対策が遅れていることは予算額にも表れています。野田市の10分の1です。我孫子市、流山市、野田市では、高齢者の移動手段として病院送迎バスも活用しています。市内全域でのコミバスの実現、病院バス等との連携を求めていきます。

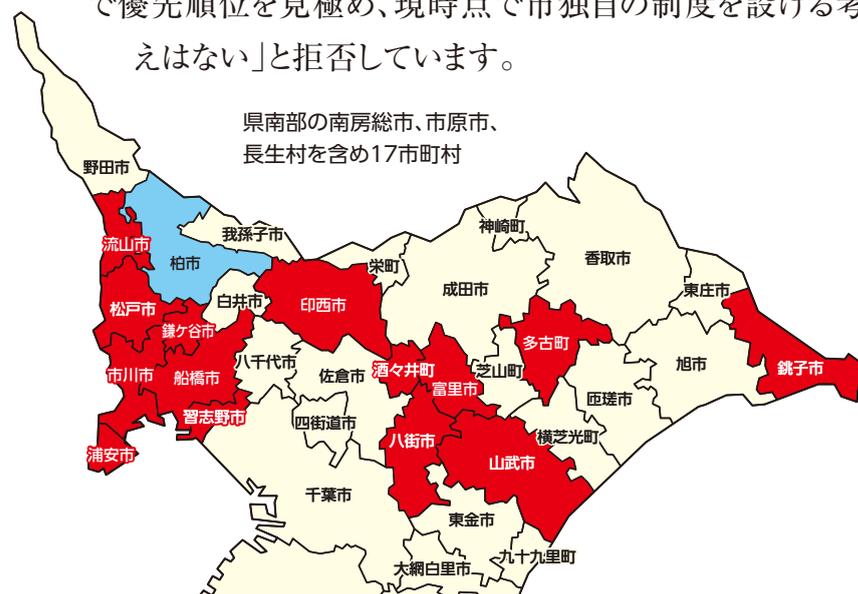
## さらに広がる高齢者の補聴器購入助成制度

# 松戸など9市町村が新年度から

前号でも取り上げた補聴器購入助成制度が、県内自治体でさらに広がっています。新年度に予算化したのは9自治体で、合わせて17市町村になりました。

お隣の流山市、松戸市でも実現します。松戸市358万円、流山市150万円の予算でスタート。いずれも65歳以上（非課税）が対象で、上限額は1人3万円です。

柏市は、日本共産党の繰り返しの要求にも「限られた予算の中で優先順位を見極め、現時点で市独自の制度を設ける考えはない」と拒否しています。



## コスト削減、の犠牲になる子どもたち

# 大規模な小中一貫校の建設はやめよ

柏市の進めている、柏1小と旭東小を統廃合し柏中学校敷地内に大規模小中一貫校を建設する計画は、子どもたちのためではなく市のコスト削減のためです。また駅周辺の再開発も関係していると考えられます。市は「地域協議会」が条件付きで「賛成している」と報告しています。条件の1つが「大規模校化」への「具体的な措置」を講ずることです。市は教員数を現在の3校の合計人数より増やすといい、議会では他市の義務教育学校（500人規模）の例を示しました。しかし1人増えたとしても1400人規模の学校では有効性は少なく、それも継続される保障はありません。教員未配置は深刻で、市内では2月現在で12人の教員が未配置。教員増員の保障はありません。求められているのは「大規模校化への対応」ではなく「大規模校はつくりたくない」ことです。